

「表御殿」の玄関部分を復元したCG



岡山 総社

県立大大学院（総社市窪木）の学生たちが、1600年代後半に築かれたとされる足守藩主木下家の「足守陣屋」（岡山市北区足守）の往時の姿を模型などで復元しようと挑んでいる。現在は御殿の一部が残るのみとなっており「全体像を明らかにすることで、歴史を生かした魅力あるまちづくりにつながる」としている。（田井香菜子）

県立大大学院生が挑戦続ける

足守陣屋 模型、CGで復元したい

表御殿玄関 住民に披露

学生が引き継ぎ 全体像は数年後完成

足守陣屋は藩主が政治を行ったり、生活を営んだりする御殿などで構成された。明治初期の廃城令などにより大半の建物が取り壊されたとされ、今は市指定史跡の「足守藩主木下家屋形標跡」（約8400平方メートル）となっている。御殿の一部は、足守藩主木下利恭の弟利永の次男として生まれた白樺派の歌人木下利玄（1886～1925年）の生家（県指定史



足守陣屋の復元模型を製作する県立大大学院の学生ら

跡、木造平屋294平方メートルとして残る。木下家の庭園・近水園が隣接している。復元は、県立大大学院で建築を学ぶデザイン学研究所の学生が2022年春から取り組む。利玄の生家を実測したデータや木下家文書の平面図を基に、住居部分に当たる「奥御殿」と台所、政治を行なう「表御殿」のうち玄関部分を木製模型とCGで再現した。6月下旬には学生ら待ち遠しい。まちづくりが利玄生家で地元住民りへの生かし方も一緒に授業の成果を発表に考えていけたらうれしいと期待した。大中の模型とCGを披露学院の片山志乃さん露。他県にある似た規模の陣屋を参考に表御殿への思い入れを感じている。子どもから大人まで分かりやすく見入る母屋造りで再現したデータや木下家文書などを説明し、歴史的な価値を再確認してもらえればと話す。復元の作業は今後も足守の歴史を伝える住民グループのメンバーが引き継ぎ、3、4年で完成する見込み。全体像を見るのが

山陽新聞社提供

掲載の記事・写真及び、図版の無断転記を禁じます。